

## 日本オンライン情報検索ユーザー会（OUG）： ライフサイエンス分科会の活動

西内 史\*<sup>1</sup>，藤島 嘉幸\*<sup>2</sup>，塚本 晶子\*<sup>3</sup>，戸上 康弘\*<sup>4</sup>

日本オンライン情報検索ユーザー会（Online Users Group：OUG）ライフサイエンス分科会は、製薬企業の情報調査部門の担当者や、代行調査会社の専門家の集まりであり、その研究活動はライフサイエンスの名前の通り、医学・薬学を中心とした幅広い分野の情報調査の手法や情報源を対象としている。また、本会は研究を目的とした場であると同時に人的交流の場でもある。筆者もまた、同業他社で同じ仕事をしている方達と問題点を共有し、相談ができる貴重な場として活用している。本稿ではライフサイエンス分科会の最近の活動内容を報告すると共に、今後の活動方針も合わせて紹介する。

**キーワード：**日本オンライン情報検索ユーザー会、ライフサイエンス分科会、情報科学技術協会、設立経緯、活動内容、サーチャー、検索演習、情報検索、文献検索

### 1. はじめに

#### 1.1 設立の経緯

（社）情報科学技術協会（INFOSTA）は1950年3月に発足したUDC研究会を母体としている。1958年にドクメンテーション協会と改名され、さらに1986年に情報科学技術協会と改名された。

そんな中、日本オンライン情報検索ユーザー会（Online Users Group：OUG）が発足したのは1979年10月である<sup>1)</sup>。この頃、商用オンラインデータベースの発展に伴い、ドクメンテーション協会のサーチャー（データベースユーザー）の間でも何らかのグループを作り、データベース利用上の相互研究をすることを望む声が高まった。そして、翌年1980年にOUGの中に7分科会（化学、工学、生物・農学・食品、医学・薬学、経済・経営、安全性・公害、特許）を設置することが決まり、各分科会毎の活動がスタートした。その後、1982年に5分科会に再編された。この時に、医学・薬学と生物・農学・食品と安全性・公害の3分科会を合わせてライフサイエンス分科会に名称が変更され、現在に至る<sup>2)3)</sup>。

#### 1.2 活動の概要

ライフサイエンス分科会は、その研究分野から、主に製薬企業のサーチャーが商用オンラインデータベースを研究

する場として始まった。その後、メンバーの変遷はあるが、活動の目的と内容は変わっていない。

例会は主査をリーダーとして毎月開催し、講師を招いての講演、見学、検索演習、事例研究といった活動を行い、会員同士の能力向上、意見交換の場として大いに役立っている。当初の研究対象はオンラインデータベースが主だったが、最近ではインターネットや電子ジャーナルの台頭により、オンラインデータベースに限定されない幅広い情報源まで研究対象を広げ、活動を行っている。

参加メンバーは製薬企業や学術情報サービス機関、データベース提供者（以下ベンダー）の、検索初心者、上級サーチャーと多彩なメンバーが揃っている。例会の参加人数は毎回20名前後である。データベースのことに限らず、業務に関する相談なども気軽にできるフレンドリーな研究会である。



写真1 集合写真（2010年1月：於文京シビックセンター）

### 2. 活動の内容

活動の内容は、大きく分けると講演、見学会、検索演習の3つに分けられる。表1と図1に2008年1月以降の例会の開催内容と参加者数の推移を示す。各回の詳細な内容や2007年以前については、OUGライフサイエンス分科会ホームページに議事録を掲載しているので閲覧いただきたい

\*1にしうち ふみ 鳥居薬品（株）安全情報管理部  
〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1  
Tel. 03-3231-6835

\*2ふじしま よしゆき 大正製薬（株）研究システム部  
\*3つかもと あきこ （財）国際医学情報センター 受託サービス部

\*4とがみ やすひろ ノバルティス ファーマ（株）開発オペレーション部

（原稿受領 2010.3.1）

表 1 2008 年 1 月以降の例会の開催内容一覧

開催年月	内容	発表者
2008 年 1 月	Dialog Update 2007	ジー・サーチ(株)
2008 年 2 月	JST シソーラスの改訂について	(独)科学技術振興機構
2008 年 3 月	Pharmaprojects の紹介	(株)資料研究所
	AdisInsight の紹介	エイディス・インターナショナル・リミテッド
2008 年 4 月	明日の新薬 Web の紹介	(株)テクノミック
	Prous Science Integrity の紹介	プロウスサイエンス・ジャパン(株)
2008 年 5 月	慶應義塾大学信濃町メディアセンターの見学	慶應義塾大学信濃町メディアセンター
	国内の診療ガイドラインと Minds などについて	(財)国際医学情報センター
2008 年 6 月	MeSH, NLM, 米国医学図書館総会の紹介	阿部信一氏
2008 年 7 月	STN ライフサイエンス系ファイルの強化	(社)化学情報協会
2008 年 9 月	NII 学術コンテンツサービスの紹介	国立情報学研究所
2008 年 10 月	検索演習	分科会メンバー
2008 年 11 月	SLA 参加報告	(財)国際医学情報センター
	T-Pharma と IDdb3 の紹介	トムソン・コーポレーション(株)
2008 年 12 月	PharmaBiotech の紹介	エルゼビア・ジャパン(株)
2009 年 1 月	検索演習	分科会メンバー
2009 年 2 月	iyakuSearch の各種データベースの紹介	(財)日本医薬情報センター
2009 年 3 月	薬事規制データベース IDRAC の特徴	トムソン・コーポレーション(株)
2009 年 4 月	医中誌 Web のバージョンアップ, 今後のサービス展開について	NPO 医学中央雑誌刊行会
2009 年 5 月	お役立ちホームページの情報交換	分科会メンバー
2009 年 6 月	JMEDPlus ファイルの索引と検索	(独)科学技術振興機構
2009 年 7 月	STN ライフサイエンス系ファイルの強化	(社)化学情報協会
2009 年 9 月	国立保健医療科学院図書館の見学	国立保健医療科学院
2009 年 10 月	EMBASE.com, llumin8 の紹介	エルゼビア・ジャパン(株)
2009 年 12 月	OvidSP の紹介	(株)ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン
2010 年 1 月	検索演習	分科会メンバー

い<sup>4</sup>)。なお、例会の開催日時は原則第三木曜日の 14:00～17:00 であり、主な開催場所は文京シビックセンターである。

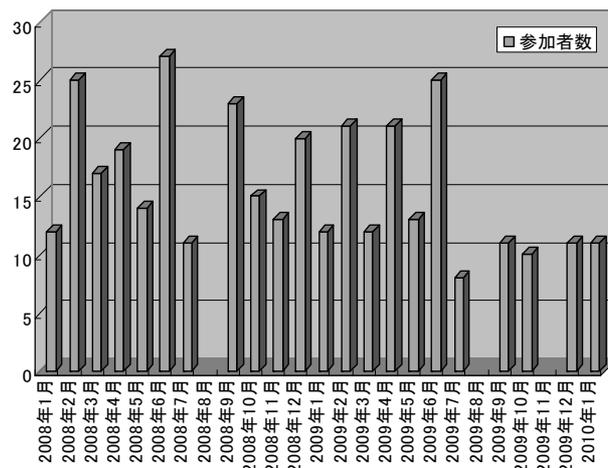


図 1 2008 年 1 月以降の例会の参加者数推移

## 2.1 講演

主にベンダーの担当者を講師として招き、新製品やバージョンアップ情報について講演いただいている。

本会においては、講師の方は専門サーチャー向けに講演されるので、内容は密度が濃く、一般ユーザー向けの説明会では聞けない新情報、検索技術、裏話などが聞けるのがメリットである。定期的に講演いただいているベンダーには科学技術振興機構、化学情報協会、医学中央雑誌刊行会、日本医薬情報センター、ジー・サーチ、エルゼビア・ジャパン、ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン (Ovid Technologies)、トムソン・ロイター・プロフェッショナル (トムソン・コーポレーション) などがある。サーチャーとして知りたい質問ができるのはもちろんだが、データベースに対する要望を直接伝えることができるのも大きな特徴の 1 つである。

JSTのシソーラス索引担当者にシソーラス用語と索引方針を説明していただいた会では、医中誌 Web の担当者も出席され、用語の解釈や索引方針をめぐり、われわれサーチャーを加えて三者で熱心な討論が行われた。ディベートではなく、検索をしやすいするためにはどうしたらよいかという共通の目的を持って話し合ったことで、非常に有意義な会となった。また、この会はサーチャーの関心を引くテーマであったためか、それを反映するかのようになり、2008 年 7 月以降では最も参加者数が多かった。小さな積み重ねではあるが、本会における、このようなサーチャーとベンダーの話し合いがライフサイエンス系データベースの向上につながるのであればありがたい。

## 2.2 見学会

年 1 回程度、都内近郊の情報分野で先端に行く機関を訪問し、データベースやシステムについて紹介していただいている。

近年では、2008 年 5 月に慶應義塾大学の信濃町メディアセンター、同 9 月に国立情報学研究所、2009 年 9 月に国立保健医療科学院を訪問した。これらは個人では訪問す

ることが難しい教育・研究機関であるが、本会での見学を申し入れたところ快く受け入れてもらえ、図書館の見学やサービスの概要説明に加えて、無料で一般公開されている「Minds 医療情報サービス」「GiNii」「厚生労働科学研究成果データベース」といったユニークなデータベースについて実習を交えながら解説していただいた。これらのデータベースには商用データベースからは得られない情報が収録されており、サーチャーとして知っておくべき情報源であると思われた。このような貴重な見学会に参加できるのも本会参加者の特典である。

### 2.3 検索演習

検索演習は、年2回を目途に実施している。演題はメンバーから提案された中から選び、専門サーチャーの集まりにふさわしい難問3~4題が課せられる。

事前に各自で苦労しながら検索を行い、結果の資料を用意し、会でその資料を配布して、どのように検索を行ったかを順番に発表する。演題の解釈、検索ストラテジー、データベース選択、キーワードの選定、検索技術など各人各様で、自分の知らない知識や、大事な検索のコツなど気付かされることが多く、大変勉強になる。また、最後に出題者から演題の背景や検索するに当たってのポイントが解説されるが、意外な意図に驚かされたり、実は該当文献が出てこない演題であったことが明かされたりと最後まで息をつく暇がないため、皆が真剣に課題に取り組んでいる。

初心者の方は、ベテランの人が多く中で参加や発表を躊躇される方もいるかもしれないが心配は無用である。おしゃべりで議論好き、おせっかい、細かいことによく気がつき、問題点を見逃さないという、実にサーチャーらしい方が多数おられるので様々なアドバイスが受けられる。社内に情報担当者が少ない方や、検索技術をさらに向上させたいという方には持ってこいの場である。



写真2 活動の様子

### 2.4 外部発表

活動内容の外部への紹介は、年1回開催される情報科学技術分野の調査・研究の発表の場である「情報プロフェッショナルシンポジウム (INFOPRO)」において、ポスター発表という形で継続的に行っている。

また、日々の活動において研究成果がまとまった場合は「情報の科学と技術」誌などに投稿する場合もある。最近では2006年に無料で使用できる文献データベースとして、PubMedとiyakuSearchの検証を行い、その結果を報告した<sup>5)</sup>。今後も積極的に外部への発信を行っていきたいと考えている。

### 3. メンバーのコメント

本稿の寄稿に当たって、メンバーから寄せられたコメントを紹介する。

■情報検索を重視する製薬企業の人が多い故か女性が多く、例外の人を除いて、いつも優しく、おだやかに接してくれる。サーチャー試験1級の方も何人かおられ、その方を含め、出席者からのアドバイスに感謝している。

■ライフサイエンス分科会は私にとって月1回の楽しみのある場である。新しいシステムの説明や検索演習など、世の中の動きや自分と違った観点など常にリフレッシュしてくれる有難い存在である。例会の終了後、何人かの人とお茶を飲んでいたら、ある女性が職を探しているという。丁度、私の友人から産休の女性の代わりに、即戦力の人はいないかと頼まれていたので、すぐに紹介した。彼女はサーチャー2級に合格しているとのことだったので、その合格証も持って行って見せるように助言した。早速採用されたが、有能なことがわかった故か、産休の人が入社後もずっと長く勤務することができた。

■分科会では悩んでいる検索手法なども気軽に相談できます。会社は違っても悩みは共通だったりします。また、医薬分野に精通したベテランサーチャーの方もいらっしゃるの、詳しいお話が伺えます。実際私も、社内に相談相手がいなくて困っていたサーチャーの一人でしたが、分科会の皆様にはずいぶんと助けていただきました（分科会がなければ今の私はありません！）。ぜひ皆様にお気軽にご参加いただきたいです。

■私にとって一番印象深いのは検索演習です。自分の検索式を発表するのは恥ずかしいものですが、ベテランの方からのアドバイスをいただける貴重な場ですし、他の方の検索式のたて方を聞くのも非常に勉強になります。また、個人ではなかなか行く機会のない所を見学できるのも魅力です。他社のメンバーとの情報交換や、業界の裏話(?)が聞けるチャンスもあり、どのレベルの方が参加しても得るものがあると思います。

■専門サーチャーの集まりなので、お招きするデータベース業界の講師の方に他の説明会では聞けない話を聞けたり、サーチャー同士の和気あいあいとした中で検索の悩みを聞いて助けられたり、安心したり、啓発されたり、のハッピーサーチャーライフが送れます☆個人的にはサーチャー試験受験時代の講師だった固武氏がメンバーにいらっしゃるの、で検索演習では奥の深〜い検索演題

に昔のようにシボられています (^\_^)

■前任者が OUG に参加していたときから、通常聞くことのできないお話を伺えると聞いていたので楽しみにしていましたが、確かに通常のセミナーとは違う、密度の濃いお話を聞かせていただきました。ライフサイエンス分野といえども様々な情報と人物交流が得られそうで、自分の見聞を広げるべく、これからの参加を楽しみにしています。

■検索演習は各自が苦勞したテーマだけあり、回答には苦勞します。しかし、苦勞した分、自分の知識では導き出せなかった部分が明確に分かります。検索式の立て方やキーワードの選定、また自社では契約していないシステムを知ることでもでき、勉強になります。所属機関にとらわれず情報交換ができる貴重な場です。回答を持参しなくとも参加は可能ですのでお気軽に参加ください。

#### 4. おわりに

情報分野の勉強に終りはない。取得した知識・技能も常に新しく更新し続けなければ役に立たないからである。しかし、日々の多忙な業務をこなしながらそれを行うのは、なかなか容易ではない。また、社内に情報担当者が少ない場合は、スキルに不安があったり、業務上、疑問に思ったことを聞ける人がいないケースもあるかと考えられる。また、他社の動向も気になる場所であろう。

本稿では、ライフサイエンス分科会の設立から現在までの活動内容を紹介したが、1979年の OUG 設立以降、一貫して同じテーマで活動しているのは、サーチャーにとって本会のような場が必要だからである。

今後の活動方針としては、われわれは先人の方々に残し

ていただいた本会のような素晴らしい場を大切にしつつ、その功績を受け継ぎ歩んでいかなければならないと考えている。近年の情報分野の激しいパラダイムシフトにより、サーチャーという職業の存在意義が問われる中、組織内や組織外に向けていかに自分の仕事をアピールするか、悩めるサーチャーも多かろうと思う。本稿を目に留め、少しでも本会に興味を持たれた方はぜひ一度でも参加していただきたい。そして共にサーチャーの新しい未来を目指していこうではないか。

最後に、本稿の執筆に当たってご協力いただいた本会のメンバーを紹介すると共に、この場を借りて深く感謝する次第である。トーアエイヨー(株) 穴澤聡子、(社) 化学情報協会 石神祥子、ブリストル・マイヤーズ(株) 恩田智恵美、協和メディアサービス(株) 加藤綾、固武技術士事務所 固武龍雄、あすか製薬(株) 佐々木享子、エルゼビア・ジャパン(株) 田中早苗、(株) サンメディア 前田亜寿香 (50音順 敬称略)

#### 引用文献

- 1) 情報科学技術協会ホームページ：協会の歩み。  
<http://www.infosta.or.jp/soshiki/shoukaiaill.html>  
[accessed 2010-02-04].
- 2) 情報科学技術協会. 情報科学技術協会 50 年史. 2000, p.21-22.
- 3) ドクメンテーション協会. ドクメンテーション協会 30 年史. 1985, p.52-56.
- 4) OUG ライフサイエンス分科会ホームページ.  
<http://www.infosta.or.jp/ls/start.html>  
[accessed 2010-02-04].
- 5) 石井恵子. 無料で利用できるデータベース：ライフサイエンス編～PubMed と iyakuSearch. 情報の科学と技術. 2006, vol.5, no.5, p.207-212.

**Special feature:** Activity reports on OUG/SIG of INFOSTA. Introduction of research activities of Life Science Working Team in Online Users Groups (OUG). Fumi NISHIUCHI (Torii Pharmaceutical Co., Ltd. 3-4-1 Nihonbashi-honcho, Chuo-ku, Tokyo 103-8439 JAPAN), Yoshiyuki FUJISHIMA (Taisho Pharmaceutical Co.,Ltd.) Akiko TSUKAMOTO (International Medical Information Center (IMIC) Foundation), Yasuhiro TOGAMI (Novartis Pharma K.K.)